

No.3029

『上海プロテスタントの宗教空間』出版

明治学院大学キリスト教研究所協力研究員

村上 志保

本活動はりそなアジア・オセアニア財団による平成 31 年度出版助成を受けたものであり、その成果として『上海におけるプロテスタントー現代中国の都市と宗教空間の変遷』を令和 2 年 5 月 20 日に勉誠出版より刊行した。

本書『上海におけるプロテスタントー現代中国の都市と宗教空間の変遷』は、中国上海市のプロテスタントを対象とし、国家によって宗教が定義・管理されている中華人民共和国において、政府による宗教管理の基盤であると同時に、信者たちの宗教生活の基盤でもある「宗教空間」に焦点を当て、現代中国におけるプロテスタントの活動状況について、宗教信仰のみならず宗教行政、都市空間、グローバル化といった多角的な視点から分析・議論したものである。本書において「宗教空間」として記述しているのは、集団的かつ定期的な宗教活動がおこなわれる教会堂および集会所といった宗教活動場所であり、さらにはそれら宗教活動場所をめぐる諸実践ー行政による規定と管理、日常の宗教活動、キリスト教イメージの消費、さらにそれらを通して宗教活動場所をめぐる生み出される意味やイメージなどーである。

本書は、宗教空間に対する分析を通して、国家が設定し管理する宗教空間と、上海という歴史的、地域的文脈とともに展開した宗教空間とを重ねて論じることにより、聖職者や信徒たち、さらには一般の人々が、歴史および共産党政権下の宗教政策によって形成されてきた多様な宗教空間を移動し使い分け、制限の中で様々な機会を得ているという動的な実際状況を明らかにした。さらに経済発展に伴う都市化および都市政策の変化が宗教空間に与えている最新の状況についても考察を加えている。

本書は、2000 年代以降の急激な経済発展にともなう社会変化と宗教行政との相互関係を多角的かつ動的にとらえることで、現在および今後の宗教状況を理解するのに必要な視座と方法論を提示しており、現代中国におけるキリスト教研究において先駆的な研究であるとともに現代中国社会論としても一定の価値を持つものと言える。